学校番号	1006

令和２年度　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高校美術２（日本文教出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

美術Ⅰを踏まえて発展的な内容で授業を進めていきます。

２　学習の到達目標

美術Ⅰの学習で養われた表現力・鑑賞力をさらに伸ばし、美術の幅広い創造活動をとおして、美的な力を豊かにし、感性を高め育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	作品制作と互いの作品鑑賞を通して、自己表現を工夫して行うと共に、互いの違いを認め合う態度を身につける。	美術の幅広い活動をとおして、独創的・創造的に表現する能力を身に着ける。	技法や道具の適切な使い方と表現方法を駆使し、創造的な表現をする技能を獲得する。	作品制作と互いの作品鑑賞をとおして、作品による自己表現に自信を持もつと共に、お互いの感性を認め合う。
評価方法	・　感想ﾚﾎﾟｰﾄ ・　取組状況･制作態度･応用力観察	・　取組状況･制作態度･応用力観察	・　取組状況･制作態度･応用力観察 ・　提出作品（ｽｹｯﾁ･作品）	・自己・相互評価
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
	オリエンテーション	美術Ⅱの学習と年間授業計画について説明をする。 参考作品鑑賞	○				a:美術Ⅱの学習内容に興味･関心を持ち、授業に取り組んでいるかどうか。	感想ﾚﾎﾟｰﾄ

1学期	木片の鉛筆描写	木片（約 12×12×12 センチ）直方体の量感を理解し、広がり･奥行き･高さの関係をしっかり観察して表現する。			○		c:対象をしっかり観察して制作しているかどうか。 立体の部分・各面・全体の把握が適切であるかどうか。 鉛筆を使った色調の展開に幅があるかどうか。	取組状況・制作態 応用力観察 提出作品（ｽｹｯﾁ･作品） 自己・相互評価
	物語を絵にする	・ 与えられた物語をよく読んで、頭に描き出された風景を絵画表現する。 既成の世界観を越え、自由な発想で空想の世界を演出する。		○	○		b. c:物語に織り込まれたｷｰﾜｰﾄﾞがしっかりと織り込まれ、画面構成できているかどうか。 色調・画面構成は各自のｲﾒｰｼﾞを表現できているかどうか。	取組状況・制作態度・応用力観察 提出作品（ｽｹｯﾁ･作品） 自己・相互評価
	立方体透視図形の三面を使った表現	・ 立方体に光があたり、明･中･暗の三段階の明度がついた状態を理解させる。 各自が想定した光源による三面の明度変化を意識しながら、有彩色で色彩表現する。			○	○	c.d:色の性質を理解し、応用しているかどうか。 ・ 色相だけでなく、同時に明度を意識した制作ができているか。 作業が丁寧で計画的にできたかどうか。	・ 取組状況・制作態度・応用力観察 ・ 提出作品（ｽｹｯﾁ・作品） 自己・相互評価
	レポート	今までに学んだことの確認および自己･相互評価	○			○	a. d:理解力と鑑賞力。 美術Ⅱに対する意欲を深められたかどうか。	ﾚﾎﾟｰﾄ (作品ｽｹｯﾁ･文章) 自己･相互評価

2学期	夏休みの宿題	高校展鑑賞 鑑賞ﾚﾎﾟｰﾄ	○			○	a. d:理解力と鑑賞力。	鑑賞ﾚﾎﾟｰﾄ
	大理調石の携帯ｽﾄﾗｯﾌﾟ（ｷｰﾎﾙﾀﾞｰ）	・　大理調石を削り、各自のｲﾒｰｼﾞに合うｽﾄﾗｯﾌﾟﾄｯﾌﾟを作成する。 ・　水を含ませ硬化させた後、ﾜｯｸｽをつけて磨き、艶を出して仕上げる 革紐を編み、ｽﾄﾗｯﾌﾟを作る	○		○	○	a.c.d:大理調石の特性を理解し、計画的に制作できたかどうか。 作業が安全に丁寧にできたかどうか。	取組状況・制作態度・応用力観察 提出作品（ｽｹｯﾁ・作品） 自己・相互評価
3学期	和紙の張子	・　各自選んだ河石を張子技法で模造する。 ・　張子に河石の色調をよく観察して、彩色する。 ﾓﾃﾞﾙに合わせた調色やｽﾊﾟｯﾀﾘﾝｸﾞ等の技法を身につける。	○	○	○	○	a.b.c.d:制作技法・手順を理解し、計画的に制作できたかどうか。 対象をしっかり観察し、適切な調色ができたかどうか。	取組状況・制作態度・応用力観察 提出作品（ｽｹｯﾁ・作品） 自己・相互評価
	レポート	・　今までに学んだことの確認および自己･相互評価				○	d：課題の目的･目標を理解し、取り組むことができたかどうか。 自己･相互評価	・　ﾚﾎﾟｰﾄ(作品ｽｹｯﾁ･文章) 自己･相互評価

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。